

関中学校だより



関中学校 HP にアクセス

※ 第 1 1 号 ※

令和 7 年 9 月 1 日発行

亀山市立関中学校

文責：堀内

いよいよ2学期 万全の熱中症対策で!!

生徒の皆さんはどんな夏休みを過ごしましたか。今年の夏は本当に暑かったですね。44日間の夏休みが終わり、本日から2学期が始まりました。毎日暑い日が続いていますので、登下校や授業など、慣れるまで大変だと思います。夏休みの生活から切り替えて、早く学校生活に体を慣らし、ほしいと思います。

学校は2学期からも、熱中症予防を徹底していきます。毎日活動場所で、WBGT(暑さ指数)の測定を続け、夏休み明けは部活動の時間は短くします。暑さによっては活動の中止や中断を行います。登下校に関しても、引き続き熱中症予防対策について、生徒たちに呼びかけを行っていきます。ご家庭でもお子さまが安全に生活できるよう、ご理解、ご協力をよろしくお願いします。

熱中症対策について

1 日傘、帽子の積極的利用を!

2 こまめな水分の補給を!

スポーツドリンクで水分補給するのも、熱中症予防に効果的です。ただし、塩分や糖分等の摂り過ぎに注意!!
水分がなくなったときは、冷水機の水を水筒に補給を!

3 ネックタオル等は必要に応じて活用を!!

首筋を直射日光や太陽熱から守りましょう。



PTA会費より、冷水機を購入させていただきました。ありがとうございました。

水分がなくなったときに水筒に水分補給ができるように、夏休み中に冷水機を配膳室の横の手洗い場に設置しました。また、外に設置してある冷水機の水量も十分に出るようにメンテナンスを行いました。生徒の皆さん、十分に活用して、意識して水分を補給してください。

また、体調不良の時は登校を控えたり、気分がすぐれないときは無理をせず、早目に先生や周りの人に伝えてください。健康で安全に学校生活を過ごすことがなによりも大切です。

さて、2学期には、職場体験学習、文化祭、校外学習などたくさんの行事もあります。一生懸命取り組んで、学校生活を楽しんでほしいと思います。

こんな関中生になることをみんなで意識して、2学期も行動しましょう

- ① 自らあいさつができ、感謝の気持ちが伝えられるような人に
- ② 安心した学校生活が送れるように、自分も人も大切にできる人に
- ③ 夢や目標に向かって一生懸命取り組める人に

学校の日常を関中学校ホームページに載せています。ぜひご覧ください。また、2学期の行事予定についてもホームページを参考にしてください。

戦後80年 平和の意味をあらためて考える

8月6日、広島市の平和記念式典では、小学生が平和への誓いを述べました。子どもたちが「戦争の悲しみを繰り返さない」と願いを込めてスピーチをしている姿に、私は心を動かされました。世界では今もなお、戦争が絶えず、命の危険にさらされている子どもたちがいるのが現実です。下記に子ども代表の「平和への誓い」のスピーチを載せました。「平和」とは、単に戦争がないことではなく、みんながお互いを思いやり、安心して暮らせる社会、「いじめをしない」「人の違いを受け入れる」「人の気持ちを考える」などの日々の行動が、平和につながっていくのではないかと私は思います。関中学校では、沖縄に修学旅行に行き、実際に戦争を体験した人の話を聞いたり、戦争遺跡等を見たりして、戦争について正しく知る機会をもっています。その体験を通して、生徒たちが戦争を自分事として捉え、平和について考えることができ、とても価値のあることだと感じています。保護者の皆様、ご家庭でもぜひ「平和とは何か」について、お子さまと語り合う機会をもっていただけないでしょうか。私たちが戦争や平和について考えることが、平和のための行動につながるのではないのでしょうか。



子ども代表の「平和への誓い」

いつかは訪れる被爆者のいない世界。同じ過ちを繰り返さないために、多くの人が事実を知る必要があります。原子爆弾が投下されたあの日のことを思い浮かべたことはありますか？昭和20年（1945年）8月6日午前8時15分。この広島に人類初の原子爆弾が投下され、一瞬にして当たり前の日常が消えました。誰なのか分からないくらい皮膚がただれた人々、涙とともに止まらない絶望の声、一発の原子爆弾は多くの命を奪い、人々の人生を変えたのです。

被爆から80年がたつ今、本当は辛くて思い出したくない記憶を伝えて下さる被爆者の方々から直接話を聞く機会は少なくなっています。どんなに時が流れてもあの悲劇を風化させず、記録として被爆者の声を次の世代へ語り継いでいく使命が私たちにはあります。

世界では今もどこかで戦争が起きています。大切な人を失い、生きることに絶望している人々がたくさんいます。その事実を自分のこととして考え、平和について関心を持つこと、多様性を認め、相手のことを理解しようとする、一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはず。まわりの人たちのためにほんの少し行動することがいづれ、世界の平和につながるのではないのでしょうか。

One Voice たとえ一つの声でも学んだ事実を思いを込めて伝えれば変化をもたらすことができるはず。大人だけでなく、子どもである私たちも平和のために行動することができます。

あの日の出来事を、ヒロシマの歴史を二度と繰り返さないために、私たちが被爆者の方々の思いを語り継ぎ、一人一人の声を紡ぎながら平和を創り上げていきます。

校長室前の掲示板にて

関町新所にある海軍の兵器製造工場、亀山の列車銃撃事件の新聞記事を紹介しています。身近なところで実際あった戦争の爪痕について、ぜひ読んで考えてみてください。